

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標 学びをととして自信を培い、地域の人々とともに健康で心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。					学校整理番号 特19		
(2) 現状と課題 個々の障害特性に応じた指導の充実が求められているため、特別支援教育に関する専門性の向上、児童生徒が主体的に活動できる授業づくり、生徒指導の充実、小・中・高の一貫性のある教育などが課題である。					学 校 名 青森県立七戸養護学校		
					対象障害種別 視覚・聴覚・知的・ 肢体 ・病弱		
					自己評価実施日 令和3年12月14日(火)		
					学校関係者評価実施日 令和4年 2月 4日(金)		
(3) 重点目標 1 「考える」「取り組む」「分かる」「楽しむ」の要素が整った授業づくりの実践 2 全教職員の協力体制が発揮できる学校づくりを目指す 3 各障害特性に対応した研修の推進 4 各学部が連携した一貫性のある「キャリア教育」の推進と進路指導の充実 5 特色ある学校づくり「絵と花のある学校、子どもたちの歌声がひびき、笑顔いっぱい为学校」の推進 6 地域社会における本校児童生徒に対する理解促進と交流及び共同学習の推進 7 地域における特別支援教育のセンター的機能を生かした、地域への積極的な情報発信と貢献					(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 ・学校評議員5名 もみのき学園園長 七戸町城内町内会長 佐々木石油株式会社専務 本校前PTA会長 青森保健大学助教		
(4) 結果の公表 保護者、本校職員のアンケート評価結果をそれぞれに配布するとともに、学校のホームページに掲載する。							
自 己 評 価					学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目		(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	「考える」「取り組む」「分かる」「楽しむ」の要素が整った授業づくりの実践	①子どもたちが学びの目標をもって活動できる授業実践を行う。 ②授業力向上を目指した授業研究を行う。	授業については、児童生徒の一人一人のニーズに合わせた目標をたて、各教科等の学習内容の整理や教室等の環境整備、教材を共有するなど指導者同士の共通理解を図りながら適切な指導グループで実践したことで授業の充実につながった。授業公開は主に初任者や中堅教諭等資質向上研修者が行い、分かる授業を目指して実践し、授業検討会では学習内容や手立てについて活発に協議した。	B	生徒が「分かる」の要素を取り入れた授業づくりを行うために、お互いの授業を見合う機会を多くもち、気軽に意見交換ができる場を設定しながら、新学習指導要領に対応した授業実践に取り組むことが必要である。	今年度は初任者研修及び中堅教諭資質向上研修者を中心に授業を公開した。授業づくりのための、研究授業や授業の公開を今後も積極的に行うとともに、授業や単元を適切に評価していくことが課題となっているので、来年度は評価について検討を深めていきたい。	
2	全教職員の協力体制が発揮できる学級づくりを目指す	①PDCAサイクルをベースにした教育課題解決に取り組む。 ②チームワークの活性化を図りながら全教職員が協力して取り組む。	新学習指導要領に対応した児童生徒の実態に即した教育課程の編成を目指し、各学部でグループに分かれて課題解決に向けて活発な意見交換を行ったことで課題に対応する教育課程の編成ができ全職員に共通理解を図ることができた。	B	教職員が協力し、PDCAサイクルによって課題を解決することについては、大変良いことなので今後も継続してほしい。	小中高をととした一貫性のある教育課程について取り組み、各学部内での成果は見られている。今後も教育課程委員会を中心に、全職員がチームとなって課題解決に努めるようにする。	
3	各障害特性に応じた研修の推進	①自閉症スペクトラム、ダウン症等に関する指導の専門性の向上を目指した研修を進める。 ②グループウェアによる研修成果の共有と効果的な活用を進める。	外部講師による学習会をととして、気になる児童生徒に関する事例等を上げ「自閉症支援」や「愛着形成の難しさ」をテーマに保護者支援についての研修会を行い意見交換がなされた。各種研修会への案内や図書紹介については、グループウェアや資料の回覧で情報共有をするようにした。	B	コロナ禍により直接研修会への参加はできない状況ではあったが、オンラインでの研修会に参加できた職員の研修内容は適切に情報提供していくことが大切である。	今年度の年度末反省やアンケート結果をもとに、次年度からの研究テーマや仮説の案を提案していきたい。また、新型コロナウイルス感染状況に応じた対応を基本に、なるべく職員間で直接情報交換ができるように計画をしていきたい。	
4	各学部が連携した一貫性のある「キャリア教育」の推進	①各学段段階におけるキャリア教育の充実を図る。 ②学段段階ごとに保護者・地域等への進路情報の積極的な提供を行う。	キャリアの全体計画を基に各学部の児童生徒の生活年齢等を踏まえた内容で学習を進めた。高等部においては、清掃のスキルの向上を目指し、各学年で行う段階的な指導計画を基に校内検定を実施するなど、生徒の清掃技術の向上につながった。	B	小中高一貫したキャリア教育となるように、学習内容の整理や児童生徒が互いに学び合い、関わりながら成長していけるような授業実践に努めてほしい。	キャリア教育の視点を踏まえた授業実践を継続するとともに、小学部段階から高等部卒業後までを考えた進路情報・研修会等の働きかけを積極的に行うようにする。	

5	特色ある学校づくり「絵と花のある学校、子どもたちの歌声がひびき、笑顔いっぱい学校」の推進	①造形活動、環境整備、音楽活動等の活動をととして、子どもたちの豊かな感性を引き出す。 ②体育の授業をととした特スポ連大会への参加や、他校等との交流を通じたスポーツ活動及び体づくりの充実を図る。	造形作品の出展、リモートによるスポーツ大会への参加、音楽朝会、他校との交流など、本校の特色を前面に押し出した活動に取り組んだ。これらは地域住民から評価を受ける機会となり、児童生徒の自信につながった。	B	コロナ禍ではあったが造形作品の出展活動やオンラインによる特別支援学校総合スポーツ大会・技能検定への参加をすることができ特色ある学校づくりに取り組むことができた。今後もコロナ対策を行い継続してほしい。	来年度の造形活動や特別支援学校総合スポーツ大会の参加に向けて、新しい試みを行うために学校の方針を決め、計画的に推進していく。「特色ある学校づくり」の具体的な活動を考えていく必要がある。
6	地域社会における本校児童生徒に対する理解促進と交流及び共同学習の推進	①学校と地域が連携・協力した奉仕活動や体験活動の充実を図る。 ②学校間交流、居住地校交流を積極的に進める。	中学部および高等部の体育や総合的な学習の時間等において、プロに学ぶとして地域の外部人材を活用したサッカー教室や接客・清掃の取り組みを行い、生徒の技術の向上が見られた。居住地校交流は、小学校13校、中学校4校と25名が行った。	B	今年度はコロナ禍の影響により予定していた行事が中止や延期となることが多かったと思うが、今後もコロナ対策を行い地域との交流は今後も続けてほしい。	今年度から七戸高等学校との交流を福祉系列の生徒を対象に美術や障害者スポーツ等を行うことに話し合いをもち学校間交流の内容を見直した。居住地校交流については、実施件数の増加に伴い、校内での指導体制の整備が必要である。
7	地域における特別支援教育のセンター的機能を生かした、地域への積極的な情報発信と充実	①地区特別支援連携協議会を核として、地域の特別支援教育に関する取組を積極的に進める。 ②ホームページなどを活用し、特別支援教育に関する積極的な情報発信を行う。	地域支援部を中心に特別支援教育に関する研修会、教育相談などに取り組み、関連諸機関から高い評価を得た。また、ホームページや学校行事などをととして、保護者や地域に対する本校の教育活動や特別支援教育に関する情報を発信に努めた。	B	上十三地区10市町村のセンター的機能として、七戸養護学校が果たす役割は大きいと思うので、今後も継続してほしい。	本校の教育相談だけでは困難な場合は、各関係機関と連携を図り速やかに情報共有をし、必要に応じて支援会議を行うようにする。次年度も地域のセンター的機能を果たすための取組を継続、推進する。
(11) 総括	保護者のアンケート結果からは、21項目すべてにおいて「達成できている」との高い評価を受け、保護者が充実した教育活動が実施されていることを実感できていると思われる。ただし、コロナ禍が続いているため、思うように授業や学校行事等を進めることができておらず参観する機会が減ってしまったこと、他の学校や地域社会との交流の機会が少なくなったことから、1点や2点に評価されている項目もあり、今後も保護者への丁寧な対応と情報交換を行うとともに、教育活動の更なる充実に向けて努力していきたい。教職員についても、ほとんどが「概ね達成できている」との評価ではあるが、新型コロナウイルス感染症予防のために、授業づくりのための研究授業や授業の公開の機会がほとんどできておらず、低い評価となった。来年度は授業や単元を適切に評価していけるように、評価についての検討を深めていきたい。					